

熊野古道エコツアーリズム

『泊観音堂と三十三体の観音石像』

－ 祈りの道を歩く －

実施日:平成 19 年 6 月 23 日(土)

参加者:10 名

三重県熊野市大泊町の集落から泊観音堂へと参る道は「観音道」と呼ばれ、祈りの道として世界遺産登録されています。この道には信者から寄進された三十三体の観音石像があり、参詣者を見守っています。



今回は、泊観音堂の今昔と三十三体の観音石像について話を聞きながら、泊観音堂までじっくり歩きました。ご案内は、観音道を毎日のように歩いて補修や清掃を行い、石像に花を捧げている向井弘晏さんです。



清泰寺に向う一行

まず、観音道の麓にある「清泰寺」を訪れました。無住となった泊観音堂の荒廃が進んだため、このお寺に「千手観音(泊観音)」が安置されています。千手観音の前で、観音信仰の盛んな頃の話や地区の古老の方の話など、当時の様子について向井さんから話を伺いました。

また、西国三十三所巡礼を模した三十三体の観音石像についての説明がありました。一番的那智山青岸渡寺から、三十三番・美濃の谷汲山華嚴寺までの札所名が刻まれており、西国三十三所巡礼に行きたいが、行くことのできない信者たちの思いを知ることができました。



清泰寺に安置される千手観音(泊観音)の前にて



清泰寺にある観音石像(一番・那智山青岸渡寺)

清泰寺には、三十三体の観音石像の内、一番から四番まで計4体の観音石像があります。また、観音道の入り口には、五番から十五番まで、計11体の観音石像が並んでいます。これらは、国道工事のために安全な場所へと移されたものだそうです。

その後、泊観音堂へと続く観音道を十六番から三十三番までの寄進された観音石像をじっくり見ながら歩き、泊観音堂へと向いました。



荒廃が進む観音堂の前で、向井さんはこれまでの経緯を含め、賑やかだった頃の様子や、信仰に篤かった方々のこと、その方々の思いについて、懇々と語ってくれました。



荒廃が進む観音堂の前にて



5年前の観音堂

かつての賑わいと面影が消えつつある観音堂と三十三体の観音石像ですが、心ある方々の信仰心と努力で守られています。向井さんは話の中で、「薬や病院のない頃の人々の信仰心は、現在の方々の信仰と大きく違うであろう。」とおっしゃっていました。先人の信仰の心をもう一度知ることは、現在私たちが失いかけている本来の心を取り戻すために大切なことであると思います。

以上